

「確かな学力を身につけ、自らの学びを広げる生徒の育成」

—確かな学力の定着を図る指導法の工夫—

英語 第2学年
志賀町立富来中学校

1 事例の概要

本校では、3年前から生徒の「確かな学力の育成」をテーマに学校研究に取り組んできた。研究の重点を「わかる授業の実現」に置き、生徒の学習意欲の向上を目指した指導法の工夫、改善に取り組みがなされてきた。平成20年度、県教委から「児童・生徒の活用力向上モデル事業」研究実践校に指定されたことから、「確かな学力」を育むために必要な要素として「学びの基本の定着」、「活用力を支える力の育成」、「活用力を向上させる力の育成」の3つを設定し、具体的な取り組みを行ってきた。さらに今年度は、3つの柱としてⅠ 基礎的・基本的な知識、技能の習得、Ⅱ 「活用力」向上のための授業の工夫、Ⅲ 自ら学ぶ力の育成 を設定し、研究の重点としてそれぞれに具体的な取り組み実践が行われている。その中で英語科として「活用力を向上させる力の育成」に向けた授業実践を公開する。

A-1 学校研究

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・ have to, don't have to, will, must, must not を用いた簡単な対話活動に意欲的に取り組む。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・ have to, don't have to, will, must, must not を用いて身の回りのことや、自分のことを表現することができる。
(表現の能力)
- ・ have to, don't have to, will, must, must not が用いられている文の意味を正しく理解することができる。
(理解の能力)
- ・ 日本と外国との生活習慣の相違点について理解する。
(言語や文化についての知識・理解)

(2) 指導上の工夫点

- ① 「学びの基本」の定着
ア 学習規律の定着を図るためにベル着、挨拶の遵守。
- ② 「活用力を支える力」の育成に向けて
ア 望ましい人間関係を構築し、学びの集団の育成を図る。
- ③ 「活用力を向上させる力」の育成に向けて
ア 基礎的・基本的な知識、技能の習得に関して普段の英語活動や、ワークシートでの確認で徹底を図る。
イ 表現力を向上させるためにウォーミングアップの活動において答えの文にプラスもう一文付け加える。
ウ ペア活動やグループ活動を多く取り入れ、生徒がお互いに学び合い、個々をより高め合うような場面を設定する。

B-1 Q and Aシート

3 指導の実際

主な学習活動 (配時)	支援 (○、●) と評価場面・評価方法 (◇)
1. Warm up をする。(5) ・ALT と Q and A を行う。 2. 本時の課題の確認をする。(5)	○ヒントを与える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 自分の家のルールについて発表しよう。 </div>	
3. have to, don't have to を使って自分の家でしなければならないこと、しなくてよいことを英作し、発表する。 ・メモを取り、友達の発表を○○has to や、○○ doesn't have to を使い発表する。	◇have to, don't have to を用いて自分自身のことを意図的に表現しようとしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 ○個別に支援をする。 ●具体例を挙げ支援する。 ○既習の表現を使いながら英文にまとめているか。(表現)

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 成果

①「学びの基本」の定着

継続して指導することによって、日々の学習態度に反映、向上が見られた。落ち着いた様子で授業に取り組んでいる。

②「活用力を支える力」の育成に向けて

協力して活動に取り組むことや、エンカウンターを行ったことで、生徒間の人間関係も改善されてきており、わからないところを教え合える学びの集団が形成され、さらに主体的な学びへとつながってきている。

③「活用力を向上させる力」の育成に向けて

既習事項の確認は単元のワークシートをもとに繰り返し行われ、徐々に効果が現れてきている。ウォーミングアップにおいては、生徒は2文で答えることが定着し、表現力の向上が見られている。ペア活動やグループ活動においては、最初は戸惑いが見られたものの、積極的に取り組み、協力し合える学びの集団を形成してきている。

(2) 課題

基礎的・基本的な事項の向上は見られるが、定着度合いにおいてはまだ十分とはいえない。文法事項のみならず、語彙力の向上など取り組まなければならないことがある。また、ウォーミングアップにおいては、生徒に飽きがないよう質問に新出の英文を取り入れていくなど変化をつけていかなければならない。英語科においては状況設定を正しく行い、英語を使い会話する場面を数多く設定し、表現力を向上させていきたい。

D-1 成果と今後の課題